

令和4年度

豊丘村の財務書類の概要

統一的な基準による財務4表

財務書類本表(一般会計等・全体・連結)、附属明細書及び注記は、豊丘村ホームページ(<http://www.vill.nagano-toyooka.lg.jp>)に掲載しています。あわせてご覧ください。

令和4年度 豊丘村の財務書類の概要

1. 財務書類について

(1) 趣旨

これまで地方公共団体で行われている官庁会計制度では、1年間の現金の収支を記録することに重点を置いた「現金主義／単式簿記」という方法が用いられてきました。

これに対し国は、厳しい財政状況の中で財政の透明性を高め、住民に対する説明責任を適切に果たし、財政の効率化・適正化を求めることとし、平成18年度に「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」（平成18年8月31日付総務省通知）の中で、地方公共団体の財務書類及び一部事務組合等の関連団体を含む連結財務書類の整備を進めるよう要請しています。

財務書類（財務4表）とは、企業会計に用いられる「発生主義／複式簿記」により、1つの取引について原因と結果という2つの側面を把握し、現金の収入・支出に関わらず、取引が発生した時点で収益・費用を記録する方法です。これは、現行の会計制度を変更するものではなく、主に財政分析として資産・債務の把握と管理や予算編成、政策評価等へ活用することを目的とし、蓄積された資産の活用やコスト意識による行財政運営の効率化の手段として補完的に用いられます。

豊丘村では、「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」（平成27年1月23日付総務大臣通知総財務第14号）で示された「今後の新地方公会計の推進に関する研究会報告書」（平成26年4月30日）及び「統一的な基準による地方公会計マニュアル」（平成27年1月23日）に定義される統一的な基準に基づき、平成28年度決算から作成しています。

(2) 財務書類の構成

統一的な基準による財務書類は、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書及び資金収支計算書の4つの表から構成されおり、まとめて財務書類（財務4表）と称します。

①貸借対照表（BS）

地方公共団体が公共サービスを提供するために保有している資産や、それらを形成した資産が、どのような財源（負債、純資産）から調達されたかを対照的に示したものです。

表左側（借方）の【資産】は、これまで築いてきた公共サービスに用いられる土地、建物などの金額を示し、表右側（貸方）の【負債】は将来の世代が負担していく金額、【純資産】は現在までの世代が負担した金額を示し、表の左側と右側の合計金額は必ず一致することになります。

②行政コスト計算書（PL）

1年間の行政活動の中で、社会保障費や人件費、物件費などの資産形成に結びつかない経常的な行政サービスにかかった経費と、それらが受益者負担でどの程度賄われたかを示したものです。住民の負担と受益のバランスがどのようになっているか明らかになっています。

③純資産変動計算書（NW）

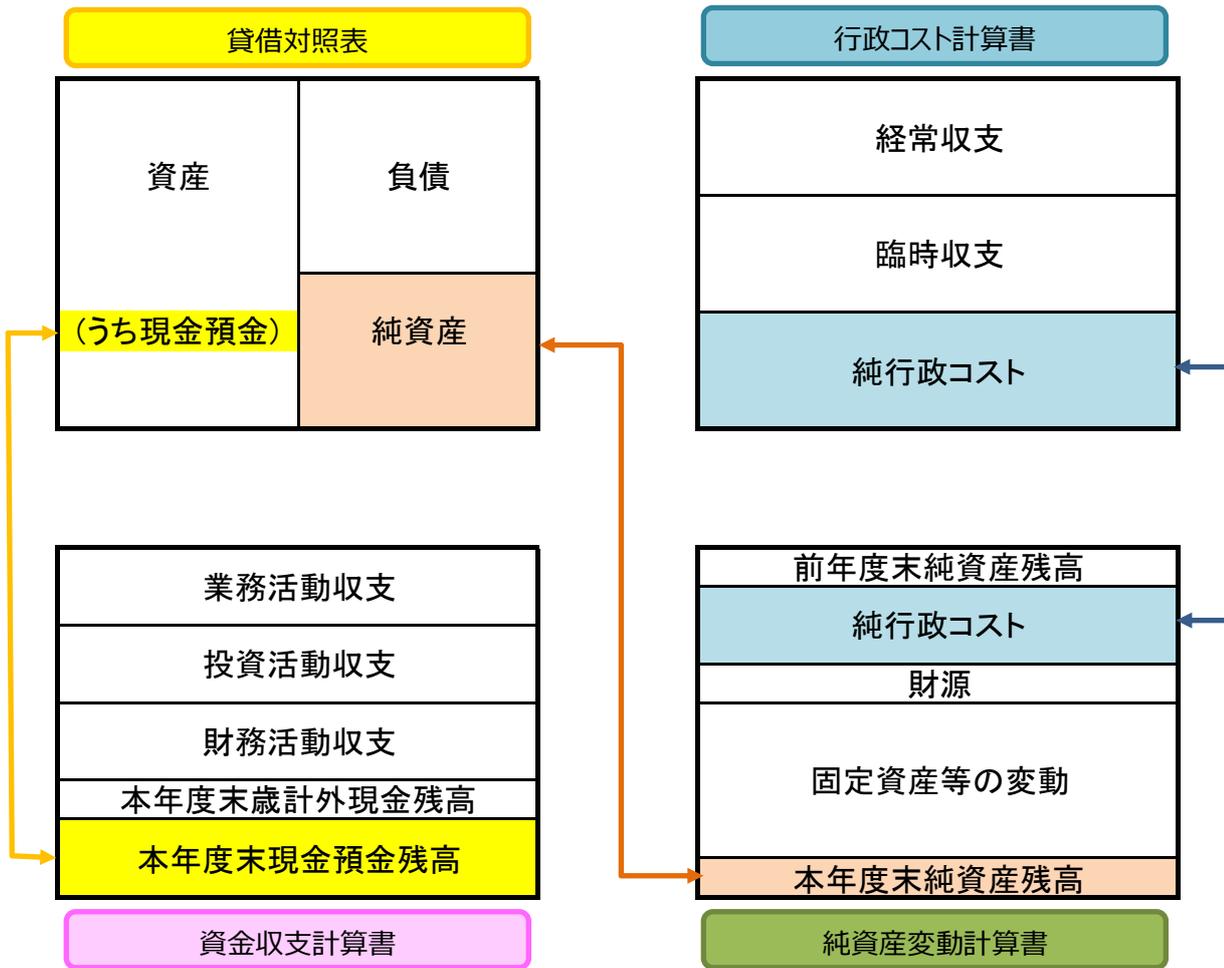
貸借対照表の純資産の部に計上されている金額が、どのように変動したかを示しています。1年間の間に税収と補助金収入を財源として、現在の世代にどの程度資源配分したのか、将来の世代にどの程度配分したのかがわかります。

④資金収支計算書（CF）

1年間の歳計現金の動きを、業務活動、投資活動及び財務活動の3つの活動区分から表示し、現金がどのように増減したかを明らかにしています。

⑤財務書類の相関関係

財務書類は以下のような相関関係にあります。



- a.貸借対照表の現金預金は、資金収支計算書の当年度末現金預金残高と一致します。
- b.貸借対照表の純資産は、純資産変動計算書の当年度末純資産残高と一致します。
- c.行政コスト計算書の純行政コストは、純資産変動計算書の純行政コストと一致します。

(3) 財務書類の作成に関して

本資料で解説している財務書類の基礎的事項は、次のとおりです。

作成基準日：令和5年3月31日時点

ただし、令和5年4月1日から令和5年5月31日の出納整理期間中の収支は、基準日までに終了したものと処理しています。

対象範囲：一般会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、水道事業会計、下水道事業会計

端数処理：金額表示単位を百万円とするため表示単位未満四捨五入の関係により合計が一致しない箇所があります。

2. 貸借対照表

【資産の部】

豊丘村が所有している資産で、固定資産は学校や道路など将来に引き継ぐ社会資本や投資など、流動資産は現金や翌年度中に現金化又は費用化するものです。

①事業用資産

役場や学校など公共用の資産

②インフラ資産

道路、水路、公園など生活の基盤となる資産

③物品

行政サービス等を提供するのに用いる 50 万円以上の機械等

④投資及び出資金

法人や一部事務組合等への出資金

⑤長期延滞債権

1 年を超えて滞納している税収入

⑥長期貸付金

奨学金等の貸付金のうち、償還予定が翌々年度以降のもの

⑦基金

長期運用基金を計上

⑧徴収不能引当金

滞納となっている税収のうち、回収できなくなると見込まれる額

⑨現金預金

歳入歳出差引残高に歳計外現金を加えた額

⑩未収金

収入すべき額のうち、まだ現金収入していない額

⑪短期貸付金

奨学金等の貸付金のうち、翌年度に償還予定のもの

⑫基金

財政調整基金及び減債基金の額

(単位：百万円)

【資産の部】		(前年度)
固定資産	26,772	25,885
有形固定資産	24,868	24,923
①事業用資産	8,971	9,166
②インフラ資産	15,180	15,121
③物品	717	636
無形固定資産	10	10
投資その他の資産	1,894	952
④投資及び出資金	95	95
⑤長期延滞債権	9	7
⑥長期貸付金	71	76
⑦基金	1,669	724
⑧徴収不能引当金	▲1	▲1
その他	50	50
流動資産	3,685	4,384
⑨現金預金	1,369	1,936
⑩未収金	33	167
⑪短期貸付金	10	12
⑫基金	2,271	2,268
資産合計	30,457	30,270
資産合計	30,457	30,270

貸借対照表からわかること

■ 村民一人当たりの貸借対照表

【資産】462 万円	【負債】152 万円
	【純資産】309 万円

(人口 6,596 人：令和 5 年 3 月 31 日時点)

村民一人当たりで換算すると、前年度末から資産(固定資産や預貯金など)が 7 万円増、それに対する純資産が 3 万円増となっています。負債額は一人当たりの換算では前年度から 3 万円増となります。

■ 純資産比率(= 純資産/資産合計)

年度	R4 年度	R3 年度	増減
純資産比率	67.0%	67.2%	0.2 ポイント減

世代間における負担の公平性と、財務の健全性を表す指標で、割合が高いほど現在の資産形成が過去および現世代の負担により賄われています。比率の減少は、現世代により資源が蓄積されたことを示しています。

資産の部では、投資その他の資産が 9.4 億円増加しています。これは、将来的にふるさと納税制度自体が廃止・縮小された際に、制度を活用して拡充した村単補助事業の激変緩和のための財源確保を目的に「ふるさと納税寄附金基金」を新設し 3 億円を積み立てたことと、老朽化した公共施設の修繕・改修に備えるため、「公共施設等維持整備基金」に 6 億円を積み立てたことによります。

負債の部では、交付税措置率が高い起債事業を積極的に活用しているため、地方債(固定負債)が増加しています。

【負債の部】		(前年度)
固定負債	9,303	8,927
⑬地方債	4,510	4,263
⑭退職手当引当金	658	665
その他	4,134	3,999
流動負債	755	1,005
⑮1年内償還予定地方債	646	672
⑯未払金	30	251
⑰賞与等引当金	54	50
⑱預り金	24	31
その他	-	-
負債合計	10,057	9,932
【純資産の部】		
⑲固定資産等形成分	29,054	28,163
⑳余剰分(不足分)	▲8,654	▲7,825
純資産合計	20,400	20,338
負債及び純資産合計	30,457	30,270

【負債の部】

資産を形成するために借り入れた地方債などで、将来支払わなければならない負債です。

⑬地方債

資産形成等のために発行した村債のうち、償還が翌々年度以降のもの

⑭退職手当引当金

在職する全職員が自己都合により退職するものとした場合の退職手当支給見込み額

⑮1年内償還予定地方債

資産形成等のために発行した村債のうち、翌年度に償還予定のもの

⑯未払金

企業会計等が翌年度に支払う消費税及び地方消費税等

⑰賞与等引当金

翌年度に支払う予定の賞与のうち本年度末で確定している支払分

⑱預り金

歳計外会計で管理されている現金

【純資産の部】

資産合計から負債合計を差し引いた額で表されます。

⑲固定資産等形成分

資産形成のために充当した資源の備蓄をいい、原則として金銭以外の形で保有するもの

⑳余剰分(不足分)

消費可能な資源の備蓄をいい、原則として金銭の形で保有するもの。

マイナスとなる事が多い

■社会資本等形成の将来世代負担比率

(= 地方債※ / (有形固定資産 + 無形固定資産))

年度	R4年度	R3年度	増減
負担比率	20.7%	19.8%	0.9ポイント増

※地方債は固定負債と流動負債を合計したものです

世代間における負担の公平性を表すもう1つの指標で、資産の形成に係る将来世代の負担の比重を把握することができます。

数字が小さいほど将来世代の負担が少なくなることを示しています。

建設事業のための借入を行い地方債が増加したため、前年度より0.9ポイント増となっています。

■有形固定資産減価償却率

(= 減価償却累計額 / {(有形固定資産 - 建設仮勘定 - 土地) + 減価償却累計額})

年度	R4年度	R3年度	増減
老朽化比率	51.2%	49.9%	1.3ポイント増

資産の取得額からどの程度減価償却されているかを示したもので、施設等の老朽化がどの程度進んでいるかがわかります。一般的に35%~50%が適正とされています。

これらの資産を限られた財源の中で今後更新していくために、施設の統廃合や長寿命化を進めていく必要があります。

豊丘村では減価償却率が50%を上回り、全体的に施設の老朽化が進行しています。ぜひ、大事に使ってください。

3. 行政コスト計算書

行政サービスを提供するのに 65.7 億円の経費がかかり、その財源として充当された使用料等は 3.6 億円です。災害復旧事業について、前年度に令和 2 年 7 月豪雨災害の繰越復旧工事が完了したため大きく減少しており、その影響で行政コストは 2.3 億円減の 62.8 億円となっています。これは税金等で賄われます。

【経常費用】

(単位：百万円) (前年度)

- ①人件費
職員の給与や共済費等の人件費
- ②物件費
委託料や使用料、郵便物の発送などに係る役務費、建物等の維持補修費や減価償却費が含まれる
- ③その他の業務費用
利息の支払いや徴収不能引当金が含まれる
- ④補助金等
住民のみなさまに支払われた補助金や、他団体などへ支払った負担金、交付金
- ⑤社会保障給付
社会福祉給付金や児童手当など扶助者に対して支払う給付金

経常費用	6,572	6,352
業務費用	3,785	3,641
①人件費	872	880
②物件費	2,845	2,683
③その他の業務費用	67	78
移転費用	2,787	2,711
④補助金等	2,297	2,302
⑤社会保障給付	405	394
その他	85	15
経常収益	355	387
⑥使用料及び手数料	244	262
その他	111	125
純経常行政コスト	6,217	5,965
臨時損失	58	323
⑦災害復旧事業費	42	311
⑧資産除売却損	1	2
その他	15	11
臨時利益	-	1
⑨資産売却益	-	1
純行政コスト	6,275	6,507

【経常収益】

- ⑥使用料及び手数料
施設の使用料や各種申請手数料、上下水道の使用料など

【臨時損失】

- 固定資産の除売却損など、特別な事情や臨時に発生する費用です。
- ⑦災害復旧事業費
年度内に発生した災害の復旧工事に要した費用
- ⑧資産除売却損
年度内に除却、売却を行った建物などの除売却損

【臨時利益】

- 固定資産の売却益など、特別な事情や臨時に発生する収入です。
- ⑨固定資産売却益
年度内に売却された土地などの売却益

4. 純資産変動計算書

貸借対照表の右側に記載された純資産の 1 年間の変動を表します。税金や国・県からの補助金が、どのように純資産に振り分けられたかを示しています。令和 4 年度は、全体として留保財源の形成に使われました。

科目	合計	(単位：百万円)		
		固定資産等 形成分	余剰分 (不足分)	計算式
① 前年度末純資産残高	20,338	28,163	▲7,285	
② 純行政コスト	▲6,275		▲6,275	
③ 財源 (税金、国県等補助金)	6,329		6,329	
④ 本年度差額	54		54	④=②+③
⑤ 固定資産等の変動		883	▲883	
⑥ 無償所管換等	7	7		
⑦ 本年度純資産変動額	62	891	▲829	⑦=④+⑤+⑥
⑧ 本年度末純資産残高	20,400	29,054	▲8,654	⑧=①+⑦

5. 資金収支計算書

1年間の現金の動きを示しており、業務活動収支は8億円、投資活動収支は▲15.4億円、財務活動収支は1.8億円で、全てを含めた年間の資金収支は▲5.6億円でした。前年度末残高や歳計外現金を加え、保有現金は13.7億円となります。

(単位：百万円) (前年度)

【業務活動収支】

経常的な行政サービスを提供するための現金の動きです。

①業務支出

行政コスト計算書に計上される支出に対応

人件費や物件費、支払利息など業務費用支出と、補助金や社会保障費など移転費用で構成

②業務収入

行政コスト計算書および純資産変動計算書に計上される収入に対応

③臨時支出

災害復旧事業などでの支出

【投資活動収支】

固定資産の形成や貸付、出資などに係る現金の動きです。

①投資活動支出

貸借対照表の資産の部に計上される有形固定資産の取得や、基金の積み立て、他団体への出資など

②投資活動収入

固定資産の取得に対しての国・県からの補助金や基金の取り崩しなどの収入

【財務活動収支】

地方債などの外部からの資金調達による現金の動きです。

①財務活動支出

貸借対照表の負債の部に計上される地方債の償還に関する支出

②財務活動収入

地方債の借入による収入

【本年度末残高】

前年度末残高に本年度資金収支額を加えると本年度末資金残高となり、歳入歳出決算書の歳入歳出差引残高と一致します。また、歳計外現金の期末残高を加えると本年度末現金預金残高となり、これは貸借対照表の現金預金の額と一致します。

【業務活動収支】		
①業務支出	5,684	5,051
業務費用支出	2,897	2,340
移転費用支出	2,787	2,711
②業務収入	6,545	6,543
税金等収入	4,627	4,638
国県等補助金収入	1,437	1,679
使用料及び手数料収入	244	262
その他の収入	237	▲36
② 臨時支出	57	322
業務活動収支	803	1,171
【投資活動収支】		
①投資活動支出	1,946	1,255
公共施設等整備費支出	1,033	730
基金積立金支出	906	513
投資及び出資金支出	-	-
貸付金支出	7	11
②投資活動収入	404	298
国県等補助金収入	341	270
基金取崩収入	-	-
貸付金元金回収収入	13	12
その他	49	16
投資活動収支	▲1,542	▲956
【財務活動収支】		
①財務活動支出	703	637
地方債償還支出	661	637
その他の支出	42	-
②財務活動収入	882	574
地方債発行収入	882	574
財務活動収支	178	▲63
本年度資金収支額	▲560	151
前年度末資金残高	1,878	1,727
本年度末資金残高	1,318	1,878
本年度末歳計外現金残高	51	58
本年度末現金預金残高	1,369	1,936